

8 トヨタネ瓦版 2019

トヨタネ株式会社 本社：豊橋市向草間町字北新切12-1 / 〒441-8517 / TEL0532-45-4137(代) / FAX0532-45-4494

社内報：第35号・発行所：総務部：編集・構成：朝倉芳則

URL <https://www.toyotane.co.jp> Email: info@toyotane.co.jp

写真：レインボーブリッジ(お台場)

8月は文字通りHOTなシーズン！



7月中旬時点ではひょっとすると今年も冷夏ではないか、「やませ」が吹いて東日本が深刻な事態になるのではと真剣に思いましたが、「無事」といふべきか猛暑の夏が訪れました。それでも昨年と比べれば少しましかなと思っ
ていますが、オリンピックのある来年の夏はどうなるのか、今から気が揉みます。猛暑を実感している時、この天気の中でマラソンや競歩は無茶だよなと思わずにはいられません。

『会社にとっても8月は文字通り超HOTな1か月です。』

【8月の3大課題】

- ①産地向け専門野菜種子に深刻な不足や品質不良が起きないか
- ②益々需要の高まる専門野菜苗を無事生産し、納品することができるか
- ③8月～9月から使用したいと言われている請負案件の施設をお客様に迷惑かけず完成できるかの3つです。

最も暑い季節、会社も最も忙しく、身も心も超HOTな1か月となります。特に近年は②の案件でてんでこ舞い
です。8月の壁は毎年大きく、高くなっているような気がします。お客様である農家にとっては、8月～9月は種
蒔、定植、フィルム張りりと冬に向けて良品を収穫するための大事な時、
生活が懸かっているのですから真剣なのは当たり前です。しかもその時期に毎年のように台風がやってきま
す。このことも8月をさらにHOTにす



る要因となります。また子育て中の社員にとっては、家族旅行を計画したい時でもあります。その願いも実現でき、とにかく事故なく、一人も体を壊すことなく乗り切ることができる会社を目指したいと思います。

川西裕康

マニュアル作成



社内では毎年のように業務に関するマニュアル作成が行われます。社員教育としての内容・お客様に渡す内容・製品の精度を上げるための内容など様々ですが、どの内容にも共通して言えることは全てが必要な内容ばかりではないため、仕事として後回しにされてなかなか進まないこと
です。



その中でも現在主に取り組んでいる内容として建設工事の各種マニュアル整備があります。今までもマニュアルは作成されていたものの、マニュアルのメンテナンスができていなかった
ので、最新の情報への更新や追加分の作成などを関係者で取り組んでいます。

マニュアル作成にいくつか取り組んでいると、同じ作業でも人によって認識が異なり、他人には言ってもなかなか伝わっていないことを実感します。マニュアル作成はルールやフローの見直しにも繋がるので、そういった点でも継続的にマニュアル作成を行っていくことの必要性を感じます。

繁忙期は特に取組みが進まないですが、マニュアルの内容が一番確認できる時期でもあるので、しっかりスケジュールを組み立てて進めていきたいと思
います。

三浦慎一

8月20日発行

「内定者の集い」

8月2日金曜日に、本社2階会議室にて「内定者の集い」を行いました。2020年入社予定の内定者は、男性5名、女性9名の合計14名となりました。14名全員が集まるのはこれが初めてです。



内容は、「自分史」やカードゲームなど近年毎年恒例のものに加え、今年初の試みとしてグループワークを行いました。

自分史発表では幼少期～現在までの「自分史」を5分間で発表をしました。

<内容抜粋>

「皆勤賞だったのに修学旅行の日だけ風邪を引いた」「ラブレター30通もらったが読んでいない」「同じ進学校に上がったら付き合うと言われ必死に勉強して合格したのに、振られた」など・・・個性派揃いの楽しい発表で、笑いがたくさん起きました。



グループワークでは、会社説明会などで配布する冊子「トヨタネライフ」の良い点・改善点を話し合いました。楽しい自分史発表とはまた違う、真剣

に取り組む姿が見られました。

最初は緊張感もありましたが、会を通して打ち解けることができていました。今後も採用チームでは内定者が成長できるようサポートをしていきたいと思ひます。

伊藤さつき

種苗だより

8月下旬となり、暑さの盛りは過ぎ、少し過ぎしやすくなつてまいりましたが、お客様におかれましては、秋の露地作の播種やハウスの苗の定植の最盛期を迎えられていることと存じます。これからも暑さが続きますのでくれぐれもご自愛下さいませ。

種苗だよりとは言えませんが、最近新聞を読んでいると目につく記事が、大手企業同士が、今後の市場の縮小を見据えて事業を統合していく動きが結構目に付きます。最近ではトヨタ自動車さんとパナソニックさんが住宅事業を2020年に統合して自社の得意分野を活かすことでスマートシティの事業を推進していくという記事がありました。

2030年の新設住宅着工件数は現在の180万戸から半減するという予想がされており、今後の住宅事業の見通しは明るいとは言えない状況ではないかと思ひます。

トヨタ自動車さんは自動運転化技術に今後も莫大な投資が必要でしょうし、本来集中すべきところに投資を集中させていく、本業以外の分野は各々の企業の得意分野を生かし協力し、統合していく動きは今後も活発に行われることでしょう。

話は変わりますが、働き方改革に伴い、労働時間を削減し如何に生産性を上げることがとても重要となりました。労働時間を減らすことは案外難しいですね。労働時間を削減するためにはトヨタ自動車さんやパナソニックさんの様に、本来集中すべき業務に限られた労働時間を費やし、やらなくても良いことはやらないという業務の取捨選択が必要です。



そこで今年度より種苗課で取り組んでいることは部署の朝礼でその日に最優先で取り組む業務を発表し、その日の最重要事項を部署の各々に認識してもらい最優先で取り組んでもらう取り組みです。

その朝礼で確認した業務が終われば、その日の業務の大半が終了していることになると思ひます。

今後も朝礼での今日の最重要事項の確認を部署で行い、生産性を上げる取り組みを行っていきたくて思ひます。

坂神和孝

農場だより

8月に入り、猛暑が続き1年で一番過酷な季節を迎えました。農場の作型も7月で終わり、ココバックのベンチ栽培を組み直しています。第4圃場Aハウス・Jハウス・Iハウスはリニューアルに向けて現在、暑い中作業をしています。



みんなバテバテで熱中症にならないように注意を促しています。それと同時に次作の苗の種蒔きが始まりました、育苗ハウスの中でトマトもバテバテに生育しています。しかし、今回の大玉トマト接ぎ木の台木試験は現在順調に生育しています。



担当者も一安心といったところです。しかし油断はできません。水やりひとつでころっと顔色が変わってしま

います。8月の育苗は難しいのです。隣の生産部ナーセリーのみなさんも必死にがんばっていますので、研究農場も失敗はできません。



秋には順調に生育した野菜を見せられるように頑張っていきます。露地作のキャベツ・ブロッコリーも播種が始まり苗場での作業と圃場の準備で大忙しです。今年も大型の台風が心配されますが、乗り切っていきたいと思ひます。

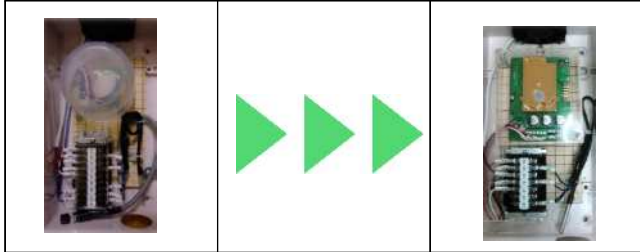
水谷雅祥
8月20日発行

製品情報：『C02当盤Ⅱ』

このたび弊社製品「C02当盤」をマイナーチェンジし8月より発売を始めた。

【変更点】

基本となるC02センサーの変更、従来のC02センサーと比較して測定精度が高い。「校正」作業が不要。



【特徴】

- ①校正不要
自己補正機能が搭載されており圃場内の校正作業が不要
- ②国産のセンサー
日本のメーカーなので不具合があったとき調査が可能
- ③測定精度が高い
センサーの基盤がコーティングされており結露や埃の影響を受けにくい
問い合わせ先：弊社スタッフまで。

甘藍？とキャベツ？



嘗て入社時殆どの新入社員は「甘藍」という聞き慣れない言葉に遭遇。業界用語である。

寒玉キャベツ

10月～11月後
 収穫時期は10月下旬～11月上旬頃。収穫後、1週間程度貯蔵し、12月上旬頃出荷。収穫後、1週間程度貯蔵し、12月上旬頃出荷。

12月～1月後
 収穫時期は12月上旬～1月上旬頃。収穫後、1週間程度貯蔵し、1月下旬頃出荷。収穫後、1週間程度貯蔵し、1月下旬頃出荷。



遑って弊社トヨタネカタログを調べてみる。

【いつからキャベツ？】

◎1986年（昭和61年）秋冬号で切り替る。多くの社員が入社し

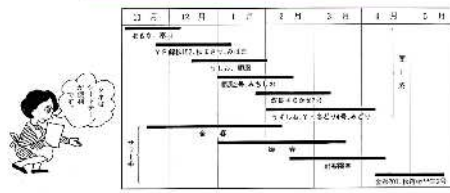
戸惑う業界用語から一般的に使用するキャベツに移行。改めて30歳前後の社員の方に確認した。甘藍から受けるイメージは・・・甘藷のようなもの？「甘藍」はもう死語とと思っていましたが一部の方で現在も甘藍のワードを使っている方もおられるようです。

- ・「寒玉キャベツ」

表現が収穫時期、出口側でのダイレクトな表現に！

- ・「夏蒔き甘藍」
- 当時は播種時期での表現である。このときのサイズはB5でした。また創立時はもう少し小さかったようです。現在のA4サイズに変更になるのはもう少し後です。

夏蒔き甘藍の品種と収穫時期



調べていると色々な発見がありました。

表現がよりダイレクトに変化した。生産者方々や市場を考えた表現？

【カラー化はいつから？】

◎1985年（昭和60年）秋号の商品画像からカラー化されました。それ以前商品画像は白黒でした。

【元号表記から西暦へ】

1989年春夏号（発行1988年秋10月末頃発行）で変わりました。これは昭和が終わりに近づき、新しい元号への予感で西暦へ変えたと考えられます。

【裏表紙を飾った宣伝広告】



◎1984年（昭和59年）春号（1983年秋発行）
 「NFT」水耕システム新発売（トマトなど）



NFT（薄膜水耕）、1973年にイギリスで開発されたシステム。1%程度の緩やかな傾斜の栽培ベッドに養液を流す水耕栽培の一種。トマト、イチゴなどにシステム販売。

『ホップ・ステップ・ジャンプ』が印象的 ◎1985年（昭和60年）秋号（1985年春発行）

トヨタネは、未来に向かって、ホップ、ステップ、ジャンプ

1) ホップ



養液栽培の第三の波

「水耕栽培」は、巨大な資金と専門技術が必要とされてきた従来の水耕栽培よりも、より安く、より効率的な新しい水耕システムを提案するべく開発いたしました。当業界にも「NFT水耕」ロックワールシステムを導入し販売促進を図ります。

2) ステップ



苗産業時代へのお誘いとバイオテク技術への努力

本誌に当社は、ハイブリット技術で結実の早い野菜種子の選抜に努めておりますが、さらに食味化、選別化に努めていく、苗産業への誘い、若くは投資を促します。さらなる繁殖の功、未来に向けてバイオ産業への取り組みも期待し、ステップします。

3) ジャンプ



システム商品の開発

トヨタネ創業は、常に最先端の技術に投資する方針を掲げ、苗産業システム化し、さらなる発展をお待ちしております。また、さらなる発展をお待ちしております。今後とも更なる販売促進を怠りません。今後とも更なる販売促進を怠りません。

これは現社長川西が20代後半の頃、考えを示したものの。社の方向づけを伺えるものです。

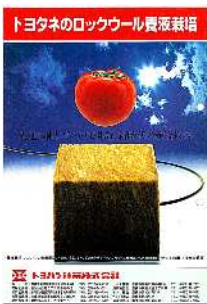
34年前に考えを明らかにして概ねそれに向かって進んでいる感じですが。

◎1986年（昭和61年）春号（1985年秋発行）

「NFT」イチゴプラントの紹介

◎1986年（昭和61年）秋冬号（春発行）

ロックワール養液栽培



主にトマト栽培、他メロン栽培、ガーベラなどへ導入普及をはかる。暫くしてトマト栽培からバラ栽培へ移行した生産者も。

【中表紙を飾ったもの】
全国種まつり1986年前期・後期
(昭和61年) 秋冬号



全国タネまつり

その時の商品がVHSビデオレコーダー、ミノルタカメラα7000、ワープロ、デジタルウォッチ、などで時代を感じます。

(ワープロ) ワードプロセッサから(PC)パーソルコンピューターへ、現在はデジタルカメラからスマホへ。インターネット、IoT、5Gなどの時代へ。

です。

愛称の「ミナクル」、地域の方々や、より多くの方に集まっていたきたいとの思いを込め「みんな来る」という意味のようです。



「みなくる」この地方の方言を元にしている感じです。写真の場所はフリースペース、会話を自由に楽しむ場所のようです。



また左写真のヘルストロンなども設置されています。「ヘルストロン」は頭痛・肩こり・不眠症・慢性便秘の緩解に電位治療器。

ミナクルは蔵書数では中央図書館に負けますが新しい施設なのでお勧めです。

アクセスのURL <https://goo.gl/maps/K8qbd3NP4yfk82g56>



このイラストのような本の虫ではありませんが最近読書の楽しさを改めて発見しました。皆さんも図書館で読書を楽しむのも良いかと思います。

【後書き】

キャベツから色々発見がありました。ヒストリーを感じます。僅か50年の社の歴史ですがそれでも色々あるものです。始まりの50年、これからは第二の成長期の50年のスタート！ 「新生トヨタネ」トヨタネカタログから見えてくるもの。

身近な図書館??

身近な図書館と思いますが結構ハードルが高いものです。理由は営業時間にあります。一般的に9時30分頃から19時、働いている人の多くは現実難しいのです。豊橋市内の図書館、2カ所、向山と中央で夕方の19時までで入館したら閉館間近です。また土日祝日は17:00という条件。中々なものです。そんな時最近知ったのはミナクルです。

ミナクルは営業時間が21時まで行っていて希望に合致した図書館です。以前から夕方の20時まで営業している



図書館、こんなところを探していましたが現実は無でした。ミナクルは豊橋の南部を拠点としたもので私の帰宅とは反対方向です。

ガソリン代が掛かってしまってそこがネックです。ここは複合施設で地区市民館、図書館、地域の窓口センターの3つからなっています。コンセプトは「人と人をつなぎ賑わいの輪が広がる 地域と共生する施設」、生涯学習の拠点、地域のシンボルとなる施設を目指しているよう

お盆休暇を旅行など家族サービスや先祖供養をされたと思います。改めてお盆をネット検索しますと日本古来の祖霊信仰と仏教が融合した行事であるとしてきました。祖先に対して行う行為。

旧盆(太陰暦)は7月15日を中心とした期間に行われていた。新暦7月15日に合わせると農繁期と重なって支障が出る地域が多かったため、新暦8月15日をお盆とする地域が多くなり一般的になった。この辺りは13日が迎え火、16日が送り火。また盆踊りなども外国では盆ダンスで定着しているようです。私自身も先祖のことも現実知らない面が多いです。TV番組のファミリーヒストリーを見ると祖父や祖母がどう生きてきたか知りたいものです。お墓の祖母に当たる人は20代半ばくらいで亡くなったようです。短い一生、彼女がどのように生きてきたか分かりません。思っただけでも供養になるのかと思います。

余談ですがミトコンドリアDNAは必ず母親から母親の母親、さらにということで私には彼女のDNAは残念ながら繋がっていません。彼女には娘(叔母)がいましたので現在も彼女のDNAは受け繋がれていると思います。家々には色々なヒストリーがあります。



家から個の時代へなり戸籍制度も日本だけとなって将来的に存続は難しいのではと思います。母親のミトコンドリアDNAによる系図を調べると発見があるかと思います。

朝倉芳則
8月20日発行